

東京五輪が与える力
～世界 No.1 になった野球日本代表が与える影響力～

1220513 中北智基

指導教員 土屋哲

研究背景

2019年にラグビーW杯が日本で開催され、日本代表の活躍が国民に感動を与えた。その後、ラグビースクールに通う子どもが増えた。東京五輪における野球の日本代表が果たした優勝の影響も同様の期待ができ、競技人口の減少が進む野球に歯止めをかける機会となる。

研究目的

東京五輪の野球日本代表の優勝を見て、小学生とその保護者の野球に対する関心や意欲などがどのように変化したかを把握するとともに、野球のおかれている状況と野球離れの原因を調査し、学童野球が活性化するための取り組みに活かすことを目的とする。

調査・分析方法

「野球クラブに所属している小学生とその保護者」、および「野球クラブに所属していない小学生とその保護者」を対象にアンケート調査を実施し、東京五輪がクラブ活動に与えた影響、あるいは、東京五輪をきっかけとするスポーツへの関心の変化を明らかにする。また、テキストマイニング手法を用いてアンケートの自由記述回答を分析し、そこから頻出語彙の繋がりを分析する。

分析結果

「野球クラブに所属している小学生」は、東京五輪の試合を見てモチベーション・動機付け・目標達成等の気持ちが高まったことが分かった。「野球クラブに所属していない小学生」にとっては、野球を始めたいという意欲の高まりが見られるとともに、競技の楽しさが強さよりも上位に来る結果となった。同様に、「野球クラブに所属していない小学生の保護者」には、子供に野球を始めさせたいという思いが見られた。また、自由記述のテキストマイニングより、野球離れが進む要因の一つは保護者負担の大きさであることが明らかとなった。

考察・結論

分析結果から、野球は、競技人口が減少している現状に反して、東京五輪を見て面白いと感じた競技・始めたいと思った競技、ともに上位に位置しており、その影響力が見て取れた。したがって、競技人口の拡大のためには、実際に野球を始め、続けられる環境をどのように整えていくかが重要であると言える。保護者の負担や指導者・練習方法に関する課題はその一端を示しており、チームで野球を楽しめる環境・指導法が求められる。